令和３年度　学校経営計画（高等学校版マニフェスト）

学校番号	学　　校　　名
４３	多治見高等学校

学校教育目標	**自ら未来を切り拓き、社会に貢献できる人物の育成**　**（一歩前に踏み出す行動力、粘り強い探究力、ともに高め合う協働力）** **スローガン　「一人一人の文武両立」　「さわやか挨拶　多治高生」**　　**校訓　　「進取　努力　創造」**	
＜教育指導の重点＞ 今年度の具体的な重点目標	重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	達成度の判断・判定基準あるいは評価指標
１　学力の定着と、思考力・判断力・表現力等が身につく授業内容及び評価方法の研究と実践	①授業の充実、評価方法の研究、学習到達度の設定など、授業改善に努めます。 ②自宅学習時間３時間以上を目標として授業内容、課題を設定します。 ③教員の資質向上のため、研修会等の充実を図り、授業改善・教育力向上に努めます。 ④「アクティブ・ラーニング型授業」を活かした効果的な授業方法を研究します。	❶授業評価や追跡調査、及び生徒アンケート結果を分析し評価します。 ❷キャリアノート等への記入や面談等を分析し評価します。 ❸学習指導委員会や様々な会議により分析し評価します。 ❹保護者アンケートや日々の授業評価により分析し評価します。
２　生徒一人一人が主体的に進路選択し、高い志とチャレンジ精神により進路志望を実現していくための指導と支援	①生徒一人一人が志を高く持ち、主体的に進路を選択し、チャレンジ精神をもって進路実現に臨めるよう、校内における進路目標（国公立大学４５、難関大学５合格）を設定し、支援します。 ②卒業生、保護者、地域、大学等との緊密な連携や協働によるキャリア教育を実践し、キャリア発達や進路志望を実現する上で必要な学力、探究力、基本的・汎用的能力の伸長と進路意識の高揚を図る支援を行います。 ③「課題探究型学習」の実践を通して、「ふるさと教育」に係る取組を推進し、学習した内容を応用したり他者と協働することを重視するとともに、自己の可能性や社会的役割を自覚できるような機会を提供します。	❶模擬試験や入学試験の結果で評価します。また、生徒及び保護者アンケートで評価します。 ❷各行事に対する生徒アンケートの結果で評価します。また、生徒及び保護者アンケートで評価します。 ❸「探究ゼミ」に関する生徒アンケートや外部からの評価（コンクール等への参加）で評価します。
３　生徒の主体的な行動を支援し、安全・安心な学校づくり	①ＭＳリーダーズ活動など、生徒の主体的な判断や活動を支援できる体制をつくります。 ②交通安全指導や情報モラル・薬物乱用防止等の講話、不審者情報共有による安全意識を高めます。 ③教育相談に関する講話や研修会を実施し、相互理解、生徒理解やいじめ防止に努めます。	❶学校評議員や育友会等で評価していただきます。 ❷事後の職員の意見や生徒の感想文を集約して評価します。 ❸「生徒及び保護者等対象とするアンケート調査」で評価します。
４　文武両立を通した生徒一人一人の自主性の育成と、集団活動を通した社会性の育成	①様々な活動を通して、集団における自己の役割を理解し、他者を尊重しながら協働する能力の育成に努めます。 ②生徒の自治活動を支援することにより自主性や自立心及び人間関係形成能力を育てます。 ③将来の目標を立て目標達成に向けて計画的に取り組み、失敗を恐れず粘り強く活動する力の育成に努めます。	❶各行事に対する生徒アンケートで評価します。 ❷生徒及び保護者アンケート調査で評価します。 ❸生徒及び保護者アンケート調査で評価します。
５　生徒一人一人の自己管理能力の育成と安全で快適な学習環境の整備	①生徒自らが自分の健康に留意して、主体的に管理できる能力を育成します。 ②安全点検を定期的に実施し、安心安全で快適な学習環境の整備に努めます。 ③自然災害や危機、健康被害等の意識を高め、不測の事態に柔軟に対応できる能力や態度を育成します。また、学校災害等に対して万全な体制を備えます。	❶健康診断・諸検査の意義を理解させ、事後指導の必要数と受診状況で評価します。 ❷安全点検による危険個所の把握と修繕具合から評価します。 ❸命を守る訓練や救急救命講習を実施し、防災体制の充実度から評価します。
６　教職員の勤務環境の改革に関する取組の推進	①教職員働き方改革プラン 2021 に基づいて、働きやすい組織・体制作りに取り組むと共に、教職員一人ひとりが、より安全で効率的かつ効果的な業務改善に取り組みます。 ②学校法規の内容と趣旨の理解を基にしたコンプライアンス意識の向上と徹底に努めます。	❶出退勤簿による指標や達成状況、生徒・保護者アンケートの評価結果、教職員の人事自己評価や各チェックシートにより、評価分析して課題を抽出し、その課題解決を図ります。 ❷校内外の研修、自己研究の成果物、及び活用状況によって評価し、その課題を職員間で共有し解決を図ります。